

## 60歳を過ぎて、 自分の人生を楽しく生きていたい。

# 気になる



風間 一恵さん

地域で自分らしく働き、  
暮らす人にお話を聞きました。

### KAZAMA ICHIE

プロフィール

合同会社 浜と山と 役員

### 風間一恵さん

八戸市出身。2016年にUターンし、インターンシップやふるさと兼業のコーディネーターに携わる。長苗代にあるコワーキングスペース「風笑堂」の運営も行う。

「自分の人生」で  
やりたいことを問われて

20代までの私は親の人生をなぞるようにして、「結婚したら専業主婦になり、子どもを産んで母になるのだろう」と信じて疑いませんでした。24歳で結婚した相手は、大学時代のひとつ上の先輩。行動力のかたまりのような人だったので、「彼についていけば安心」と思っていました。二人で世界一周の旅に出て、ブラジルにいたとき耳にしたのが東日本大震災のニュースです。彼の実家は仙台にあったので、急いで帰国し、無事を確認したかと思えば、彼は震災ボランティアとして飛び回るように。「この人を支えることが私の喜びだ」と考えていたので、本人不在のまま義理の実家で暮らしはじめます。でも、あるとき彼に「依存されても困る。一恵は自分の人生でやりたいことはないの？」と言われ、頭が真っ白になりました。私はとつとつに彼の人生の一部だと思っていたんです。

その後、彼がはじめた事業の拠点の名古屋で二人暮らしをスタートしたのですが、再構築することはできず、結局離婚することになりました。

八戸で楽しく生きるために  
必要なものって？

私は岐阜県のNPOに勤め、大学生のインターンシップなどを支援していたので、離婚後も2年ほどそこで働いてから、2016年に八戸へUターンしました。前職の経験を生かし、コミュニティづくりや企業の採用支援などを行うNPOに入社。18年には観光まちづくり会社にも所属し、複業するようになりました。さらに、ウェブディレクターの藤加奈子さんとの出会いをきっかけに、今後の人生について考えるように。私は複業、藤さんはフリーランスという働き方ができているけれど、「60歳を過ぎたらどうなるんだろう」という話が出たんです。60歳になっても八戸で楽しく生きるために必要なことを探るため、楽しく生きていく先輩方に会いに行きました。みなさんに共通していたのは、自分の人生を生きようとしていること。誰かに経済的に依存することなく、自分で稼ごうとする力があること。仲間をつくる力があることでした。

この経験をヒントに、この地域での暮らしを楽しみながらスキルをシェアできる仕組み

みをつくるべく、藤さんと一緒に、ローカルコミュニティ「風わらうラボ」や、コワーキングとコミュニティオフィスの「風笑堂」、法人組織「合同会社浜と山と」を立ち上げました。風笑堂にはクリエイターや大学生、子連れなどさまざまな属性の人が出入りし、課題や困りごと、楽しいことなどを共有する、ローカルコミュニティの拠点となりつつあります。

誰かの人生じゃなく、  
自分の人生を生きる。

私自身は、35歳くらいから気持ちが悪くなった気がしますが、人間関係で無理をせず、心地よさのある範囲で付き合えばいいと思えるようになったから。結婚していた頃は、嫌われないように夫の価値観を優先していましたが、自分を押し殺していたように思います。誰かの人生をなぞったり、一部になったりするのではなく、今は自分の人生を生きています。自分の人生だから、雑に生きても誰かに責められることじゃない。でも、それなら、楽しく生きたほうが得じゃないですか。